

新たな化学品管理自主活動(JIPS)の推進

平成22年3月9日
(社)日本化学工業協会

化学産業にとって“化学物質”はまさに製品であり、その生産においてはこれまで、その物質の有害性の情報に基づいての保安、防災、環境保護および作業安全の観点から、管理が実施されてきている。今、化学品の管理は従来の危険有害性ベースの管理からリスクベースへの管理、すなわち“危険なものは一律禁止・制限”から、“化学物質の情報に基づいていかにリスクを低減し、安全に使用するか”という現実的視点にたった管理が求められており、さらに顧客・ユーザーを含めた全ライフサイクルでの化学品管理が求められている。

1. JIPS (Japan Initiative of Product Stewardship)とは?(図1)

・JIPS は、ICCA(国際化学工業協会協議会)の国際的な化学品管理戦略 GPS(Global Product Strategy)に基づき日本化学工業協会が推進する、あらたな国内産業界の自主的取り組みである。

・GPS は、2006年の国連の化学物質管理に関する戦略的アプローチ(SAICM)の決定を受けて、ICCA 理事会で決定された化学品管理の新たなフレームワークである。これにより2020年までにリスクベースの化学品管理を進め、その管理をライフサイクル全体に渡って拡大していくことでリスクを低減する、すなわち“プロダクトステewardシップ”(図2)を発展させることにより、化学産業に対する行政と社会の信頼を得ることを目指す。

2. JIPS の内容

・科学的手法に基づく化学物質のリスク評価：化学物質(製品)の有害危険性の情報を収集し、解析したうえで、使用・用途の情報を合わせてリスク評価(暴露量と安全量の比較)を行う。

・リスク管理および情報公開：リスク評価の結果に基づき、作業安全や消費者保護および環境影響の低減のため適切な管理を行い、その結果をサプライチェーン及び社会一般に公開する。

・法対応(化審法、REACH等)及び他のプログラム(OECD HPV Programme等)とのベストバランスを図る。

3. JIPS の展開

・従来のHPVプログラムに比し、より現実的かつ効果的な取り組みを展開する(表1)。

・今後の予定

2010年5月 JIPS ガイダンスを公表

2010年5月以降 JIPS の自主行動計画及び JIPS ガイダンスの一般公表、JIPS 活動開始

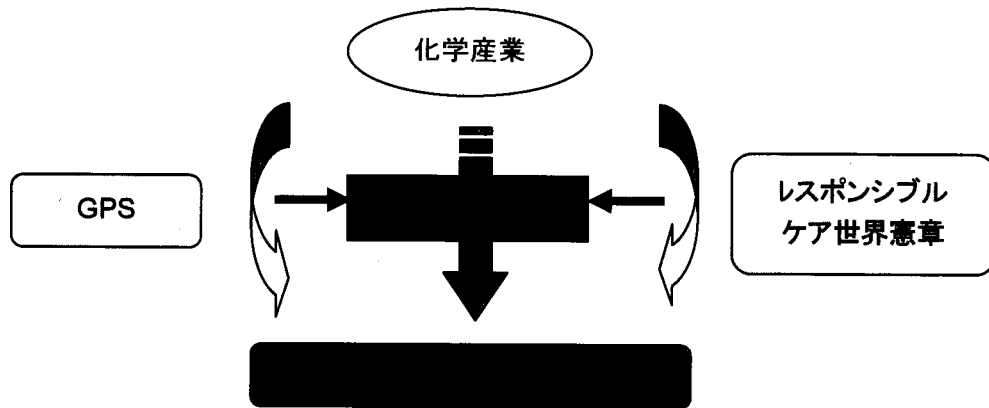


図1 レスポンシブルケア、ICCA GPS および JIPS の関係

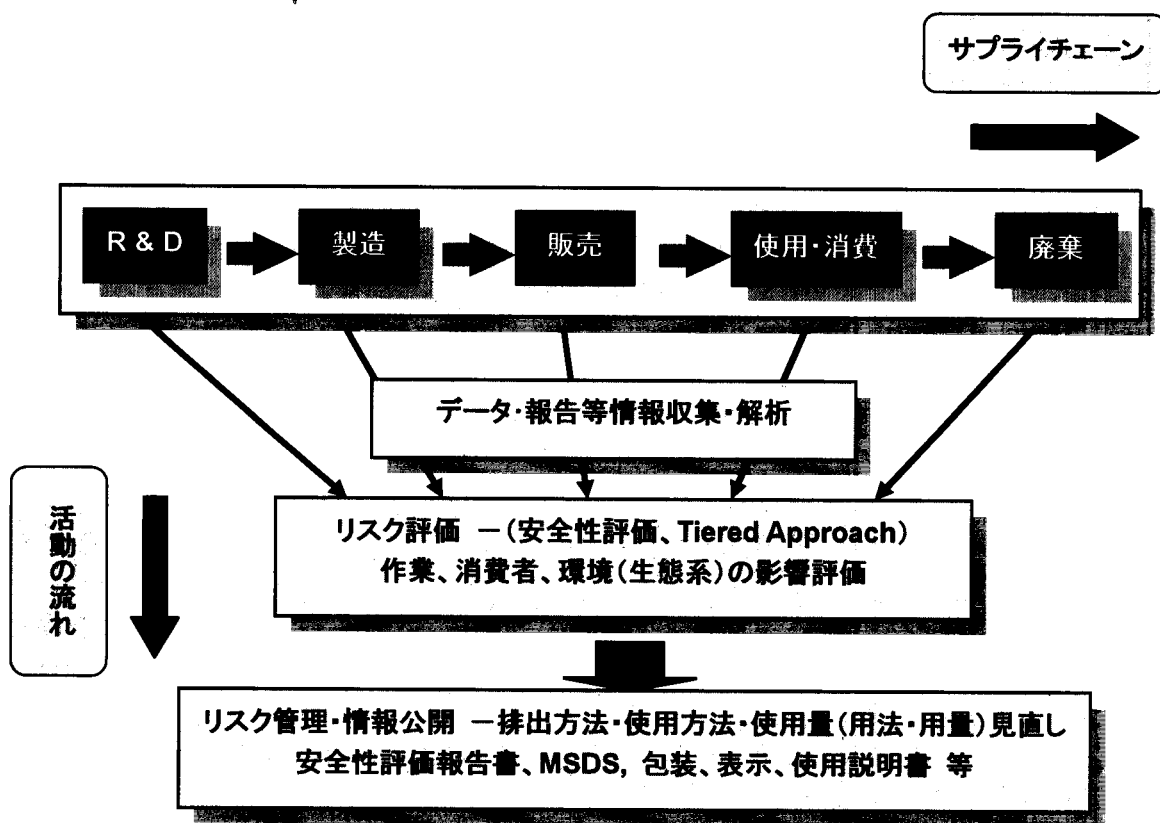


図2 プロダクトステewardシップの概念図

表 1. JIPS の具体的な枠組み

項目	JIPS
活動主体	化学関連企業（産業界自主活動）
対象物質	市場流通製品全般（ $\geq 1\text{t}/\text{y}/\text{社}$ ） リスクベースでの優先順位付け
対象物質リスト公開	公開予定
範囲	リスク評価及びリスク管理
収集情報	リスクの程度に応じた要求項目 （Base Set 情報と優先順位付け）
結果報告書	化学品安全性要約書 等
結果の公開	公開（データは各企業ウェブサイト・JCIA ウェブサイトリンク、ICCA-IT Portal へリンク付け検討）
情報発信対象	社会一般、サプライチェーン全体
スケジュール	2010 年～2020 年（WSSD ゴール）

以上

